

5月に開催 ピティナ・イベントレポート

<レポート 1> ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 2007

『丸の内・周辺エリア関連ミニコンサート』開催

2007.5.3(木・祝)4(金)5(土・祝)6(日)丸の内エリア

<レポート 2> ピティナ・ピアノステップ『アナリーゼ・ステップ』開催

2007.5.5(土・祝)パリオホール

ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン 2007 『丸の内・周辺エリア関連ミニコンサート』 開催

社団法人全日本ピアノ指導者協会



5/3～5/6丸の内周辺エリアのビルでゴールデンウィーク中に開催されたラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン「熱狂の日」音楽祭2007関連エリアイベントミニコンサートは、各会場で大盛況のうち終了した。新丸ビルオープンで大混雑のため丸ビル35階に移して開催されたピアノ&室内楽のコンサートも、満員の聴衆で入場制限がかかるほど。ピティナからは総勢80名のアーティストが参加。ピアノ、管楽、弦楽、そしてテーマの“民族のハーモニー”にあわせて多種多様な作曲家の音楽が流れ出すと、休暇を楽しむ人々は次々と足を止めて聴き入った。

日程:2007/5/3～5/6

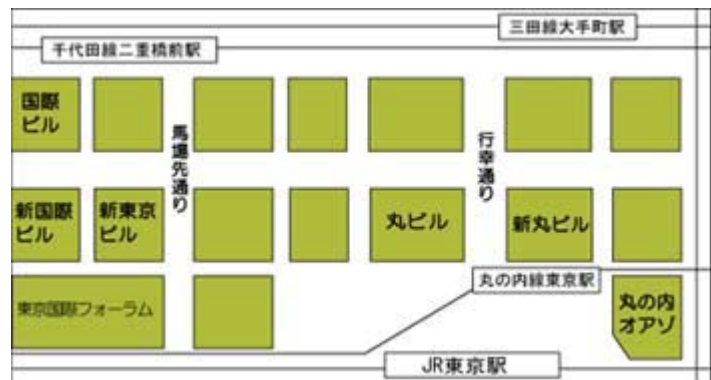
会場:丸ビル35階 / 丸ビルマルキューブ / 新東京ビル1階丸の内カフェ前 / 国際ビルエントランス / 丸の内オアゾ 広場

開催マップ

- ・丸ビル35階(5/3～6)
- ・丸ビル1Fマルキューブ(5/6)
- ・新東京ビル1階丸の内カフェ前(5/3～6)
- ・国際ビルエントランス(5/3～6)
- ・丸の内オアゾ1階 広場(5/6)
- ・東京駅前(丸の内側)特設会場(5/6)

当初予定されておりました新丸ビル3階会場は、オープン初日からの混雑のため、会場変更になりました。

5/6の新東京ビル・国際ビル・特設会場の公演は雨天のため中止又は変更となりました。



参加アーティスト

【ピアノ】伊賀あゆみ・泉ゆりの・大神香澄・久保はるな・黒田亜樹・佐藤展子・杉谷昭子・関春絵・田中克己・中井恒仁 & 武田美和子・久元祐子・村田有希 ピティナ・グランミューズ入賞者32組

【管楽器・弦楽器】在原亮師(Vc)、伊沼綾乃(CI)、井上直哉(Fg)、越後なつみ(va)、大成雅志(CI)、大森啓史(Hr)、小野恵美(Vc)、小泉悠(Vn)、斎藤光晴(FI)、斎藤雄介(Hr)、竹山愛(FI)、都筑のどか(Hr)、外岡誠二(Fg)、中川和歌子(vn)、廣瀬心香(vn)、藤井泉(vc)、宮崎亜希(Ob)、最上峰行(Ob)、柳澤 智之(Cb)、米納真妃子(Va)、李文佳(Vn)、クラリネット五重奏PETIT PAVILLON 他

ピティナ関係者のみ掲載しております
五十音順

その他の公演:丸の内合唱団(5/4、5/5)、丸の内交響楽団(5/4、5/5、5/6)

(ピティナホームページより転載)



総勢80名のアーティストが出演
(伊賀あゆみ)



ドヴォルザーク: ピアノ五重奏
(久元祐子)



グランミュージック入賞者も出演
(司会: 村田有希)



2台のピアノで迫力あるデュオ
(中井恒仁 & 武田美和子)



バルトーク、コルサコフなどのピアノソロ
(泉ゆりの)



クラリネットとデュオでロシアやフランスもの
(関春絵 & 渡邊あき)



立錐の余地もないほどの丸ビル35階



新東京ビル丸の内カフェ前



国際ビルエントランスで立ち止まる人々



目の前の演奏にうっとり



楽器紹介のサービスも



11人の管楽セレナード



陽気と観客の熱気にリベルタンゴも
ヒートアップ (黒田亜樹)



トーク & 演奏に観客も笑顔



ラストはマルキューブに“千の風になっ
て”のオーボエが響く

ピティナ・ピアノステップ 『アナリーゼ・ステップ』開催

主催：社団法人全日本ピアノ指導者協会



「アナリーゼしたことを演奏に反映できるようにしたいです」 演奏の前にこんな、ちょっと耳慣れないコメントが聞かれた、5月5日のパリオホール(東京都文京区)で開催された「アナリーゼ・ステップ」は、文京春日地区が開催した「ピアノステップ」の一つ。

「ピティナ・ピアノステップ」とは、ピアノ学習者のステップアップを目的としたステージで、1997年度創設され10周年を迎えた。年間約350地区で開催し、幅広い世代のピアノ学習者、また指導者やピアニストなど多岐に渡る人々が、多様なスタイルで参加している。

この日、参加者が曲をアナリーゼし、書き込みをした楽譜を、事前に添削してもらい、それに基づいた当日の演奏を、さらにオプション企画の中でアドバイザーの秋山徹也先生に指導してもらうという、ピティナ初の試みとして「アナリーゼ・ステップ」が行われた。

【アドバイザー：秋山徹也先生(チーフ)、江崎光世先生、松崎伶子先生】

アナリーゼに関するオプション企画は第4部と第6部の終了後、「アナリーゼにどのような利点があるか」「どのようにアナリーゼをすればよいのか」の二つのテーマ(各10分)で行われた。参加者のアナリーゼ楽譜をステージ上のスクリーンに映し出しながら、講師の秋山先生、参加者本人、客席の皆さんが全員で確認できる、画期的な場となった。

曲を自作のストーリーになぞらえたもの、管楽器が絡み合うバンドの楽譜に見立てたもの、フーガの分析に独自の用語法を織り込んだもの…まで、11人の多種多様な書き込みがスクリーン上に披露。



秋山先生のコメントでは、まず「よい演奏をするためには、分析を通じて、その曲にふさわしい表現が何かを見つけ、その基本を一生懸命覚えること」を強調。

さらに、「それらを組み合わせ、想像した響きに近づくように努力しながら、自分なりの表現、時には破格な表現も模索していきましょう」と説明された。その過程で、練習の方法、譜読みのスピードも確実にレベルアップしていく、というもの。最後に、秋山先生はソルフェージュの重要性を改めて訴えていた。

コンペティションのリハーサルとして参加した方から、骨太なプログラムで聴衆を魅了したグランミュージックの方まで、バラエティー豊かで質の高い演奏がゴールデンウィーク終盤の一日を盛りあげた。

(ピティナホームページより転載)